

京都腎臓医会 新会長・副会長就任 ご挨拶

京都腎臓医会 会長

八田 告先生（八田内科医院 院長）



2026年新春

京都腎臓医会
Kyoto Kidney Physicians Society
Since 2018



この度、武田和夫先生、家原典之先生の後を継いで、第3代会長を拝命いたしました。先代には、京都腎臓医会の地盤をしっかりと作って頂き、心から感謝しております。

これまで、私は事務局として、京都腎臓医会の立ち上げと運営に必死で取り組んでまいりましたが、これからは京都の腎臓病診療をリードする優秀で信頼できる5名の副会長、そして各基幹病院のリーダーとして活躍されている執行部の先生方とよく相談しながら、本会をさらに発展させていきたいと考えております。

京都腎臓医会の立ち上げにあたっては、兄貴分である京都糖尿病医会の先生方に手取り足取りさまざまことを教えていただきました。和田先生、鍵本先生、長谷川先生をはじめ糖尿病医会の先生方には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。また、各大学の教授クラスの先生方には顧問をお引き受けいただき、所属大学や診療科の垣根を越えた活動を温かく見守っていただいていることにも心より御礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導を賜りますよう、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

京都腎臓医会の大きな特徴の一つは、現在9つを数えるワーキングチームの存在です。学会の各種委員会やワーキングチームは大変狭き門ですが、京都腎臓医会のワーキングチームは「やる気さえあれば誰でも参加できる」、そして「地元ならではの対策を立てて実践できる」場です。ご参加には各ワーキングリーダーの承認を要しますが、基本的には「来る者は拒まず」のスタンスですので、ぜひ活動してみたいチームにお声がけいただければ幸いです。

また、本会には非専門医の先生方にも多数ご入会いただいていることも大きな特色です。CKD地域連携WGでは、Zoomを用いたサロン形式の会を定期的に開催し、いつでも気軽に症例相談をしていただける場の提供を企画しております。紹介すべきか悩まれるケースなどがあれば、気軽に入室し、いつでも退室できるような場を想定しておりますので、ぜひご期待ください。

さらに、これから京都の腎臓病診療を担う優秀な若手・中堅の先生方の活躍の場を、より一層提供できるようなシステムの構築も検討しています。副会長の中でも

若手である山本伸也副会長には、第10番目のワーキングチームとして「若手活性化（仮称）WG」の立ち上げを依頼しており、今後、執行部会で検討を進めていく予定です。

これまで通り、京都糖尿病医会、循環器医会、透析医会とは密接な連携を続けるとともに、今後は内科医会や泌尿器科医会などとも緊密に連携していきたいと考えています。内科医会とは、非専門医のCKD治療の進め方、腎臓専門医紹介タイミング、LTERの普及などを通じて密な連携を取りたいと思います。また泌尿器科医会については、血尿や頻尿など、患者さんからの訴えの多い症状をテーマとしたコラボ企画も検討してまいります。また、京都府や京都府医師会の行事や委員会には、糖尿病関連も含め、これまで同様に積極的に関わっていきたいと思います。

製薬会社が開催する勉強会には宣伝的側面がありますが、私たち医師が純粋に学ぶ公的な場の代表は学会です。一方で、もう少し敷居の低い勉強会や研究会を、自分たちの手で企画・運営できることも京都腎臓医会の大きな利点です。前和田成雄副会長が築かれた京都糖尿病医会の取り組みに倣い、今後も大切に守っていきたいと考えています。

透析医会は全国各地に存在しますが、腎臓医会を設立し、実際に活動しているのは、私の知る限り京都だけです。全国に誇ることのできる京都腎臓医会は、近い将来、全国のモデルケースとなるはずです。そのような会の設立が難しい理由の一つに、学閥や診療科の垣根が挙げられますが、京都では、そうした垣根を越えて京都府の腎臓病医療を真剣に考える会員の先生方が集まってきたおかげで、全国的にも稀有な医会をつくることができたと深く感謝しております。なお、京都腎臓病療養指導士会（CKDE-kyoto）という腎臓病療養指導士の会を、都道府県単位で最初に立ち上げたのも京都です。

私の任期中に、本会は10周年を迎えます。顧問の先生方や関連団体の先生方にもご参加いただき、執行部一同で盛大な祝賀会を企画したいと考えております。

最後になりましたが、私一人の力では到底十分とは言えません。引き続き、会員の皆さまのご協力とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げて、就任の挨拶とさせていただきます。